

# 幼稚園児のグループリーダー形式に就て(2)

摩 瀬 靖 正

附 記 (京都市内幼稚園児実体調査集計表)

京都市内幼稚園児に対して種々の観点より、実体調査を施行したのであるが、本論に直接関係を持つておる面を資料の一端として結果構成を示す事にする。

## (1) グループ形成の条件

特に五人以上十人迄の間で自由遊びの中に形成された自然のグループを調査したのである。グループの回数 77 回行いそこに於て如何なる者がリーダーになるかを性別、グループの最高年齢、最低年齢等を調査した表が下記の通りである。凡て昭和二十七年九月・十月に施行したものである。

右の表に依ると、リーダーの性別としては男、女共にリーダーになる事が解るのであり、性の区別には関係がないのである。グループを形成した場合、男児のみ、或は女児のみがリーダーになるとは限らないのであり、幼稚園児に於ては、性の区別はないのである。年齢的に見ても、必ずしも最高年齢の幼児がリーダーになるとは限らないのであり、寧ろ中間的存在の幼児がグループのリーダーとして活躍しておることが認められたのである。

グループ形成の表 (昭和廿七年九、十月集計に依る)

人数	回数	リーダーの性別 (男)	リーダーの性別 (女)	最高最低年齢	リーダー平均年齢
5	28	20	8	6.8	4.2
6	19	12	7	6.9	4.7
7	14	6	8	6.7	4
8	6	5	1	6.2	4.5
9	5	3	2	6.2	4.9
10	5	5	0	6.5	5
合計	77	51	26	—	—

尚幼児は社会性の発達が未熟なるが故に、人数が増すと共に回数が減少して行く傾向を持つておるのである。要するに社会的行動の発達段階にある幼児は、グループを形成しても何時迄も続けられるものではなく常に流動性を有しておるのである故、形成されるグループメンバーは回数と反比例の状態を持つ特徴を有しておるのである。

る。

(2) リーダーになる幼児の性質

グループを形成する幼児の中には、必然的にリーダーなる幼児がいるのは当然の論として肯定出来るのであるが、今此処に、然らばそのリーダーには、如何なる性質の幼児がなるかというようにこと就て、調査して見ることにする。

リーダーになる幼児の性質分布表

性質の類別	人数	百分率	性質の類別	人数	百分率
性 質 類 別	26	7.6%	統 一 力 有	16	4.8%
決 断 力 有	33	10%	落 着 意 有	14	4.5%
明 快 活 的	23	6.9%	発 表 力	11	3.4%
社 交 的	21	6.3%	剛 腹 有	8	2.4%
積 極 的	21	6.3%	情 熱 有	2	0.6%
創 造 力 有	38	11.5%	美 行 力	7	2.1%
自己記入カード有	43	13%	敏 感	4	1.2%
各自の特徴知	21	6.3%	尊 敬 される	3	0.9%
世 話 好 き	18	5.4%	短 気	3	0.9%
素 直	17	5.1%	大 人 しい	2	0.6%
自 信 有					

(昭和廿七年九月、十月集計に依る)

グループを形成したその中で、自然的に発生せしリーダーの性質に就て381人の回答を得たのであるが、その結果を下記の表に現わして見ることによつて、如何なる幼児がリーダーたるべき性質を有しておるか解ると思ふのである。

此の表を見ても解る様に、種々の性質の持主がリーダーになることと解るのであるが、表に依り百分率の大なる者がその過半数を占めておるのは当然であるが別紙の論書に依つて各項目を挙げて説明したるものに依つて明らかなる裏付けといえるのである。

扱、次に論を進めて、リーダーたる幼児の必然的に備われないはならぬ要素に就て説明等を加えておくことにする。各要素を区分的に説明して行くことにする。

(4) 知的な面

知能の面に於て、リーダー格になつておるその品等級階に就て調査したのであるが、次の如くである。

(昭和廿七年九月、十月集計に依る)

品 等 段 階	知 能 指 数	リ ー ダ ー の 知 能
最 優 (最上知)	141以上	5人
優 (上 知)	125—140	47
中の上(平均知上)	109—124	25
中 (平均知)	93—108	0
中の下(平均知下)	77—92	0
劣 (下 知)	61—76	0
最 劣 (最下の)	60以下	0

此の表を見ても解る様に、リーダーになつた幼児の知能の点を見ても平均知能以上以上の幼児がリーダーになる事が解つたのである。

やはり知能の低い幼児はリーダーになる事は不可能、換言すればリーダー格としては認められないのである。

### 向 性 検 査 表

番号	No	男 女
姓名		
年令	年	月
所属	西山幼稚園	組

外 向 点	
無 応 答 数	
向 性 指 数	
相 対 向 性 指 数	

〔注意〕 つぎの50組の問題は人の性質や動作をあらわしたものです。それぞれ反対した性質がAとBで一組になつています。自分の平常の性質や動作をよく考え、AとBとをよく比べて、どちらの方が自分によくあてはまつているかをしらべ、あてはまつているほうに○印をつけて下さい。○印ではつきりとAかBかのどちらかまつんでください、どちらもあてはまらないときはそのままにしておきなさい。

#### 〔問題〕

1. { A—ちいさなことでも気がかりです  
B—ちいさなことはあまり気にしません
  2. { A—何をするときでも早く決心がつきます  
B—何をするときでもなかなか決心がつきません
  3. { A—陽気でいつもほほからかです  
B—陰気で淋しい方です
  4. { A—失敗するとこりこりします  
B—大ていのは失敗しても平気です
  5. { A—あまり人と話をしない方です  
B—人とよくしゃべる方です
- 
26. { A—人としゃべることは好きです  
B—人としゃべることはあまり好きません
  27. { A—どちらからかといえば気むづかしい人間です  
B—気がるな人間です
  28. { A—よく人におだてられます  
B—人におだてられるようなことはありません
  29. { A—いいだしたらなかなか我がつよい方です  
B—あまり我をはることはありません
  30. { A—なかなか友達が出来ません  
B—すぐに友達が出来ます

6. { A—怒つたり悲しんだりするときすぐ顔に出ます  
B—感情をあまり外へ出さない方です }
7. { A—何かするときはざつと考えて実行にとりかかります  
B—何をするときもとやかく考えて実行に手間取ります }
8. { A—よくにぎやかになさわぎます  
B—静かな方でありさわぎません }
9. { A—気が変らない方です  
B—よく気が変る方です }
10. { A—考えることはきらいで活動する方が好きです  
B—考えることが好きで活動することはあまり好きしません }
11. { A—根気がありません  
B—しんぼう強い方です }
12. { A—よく理くつをいいます  
B—理くつ深い方ではありません }
13. { A—決心を平気で変えることが出来ます  
B—一度決心したことは中々変えられません }
14. { A—自分の持物をあまり大切にしません  
B—持物を大切にします }
15. { A—呑気な方です  
B—よく心配する方です }
16. { A—人と議論するときにきにかつとなつてきます  
B—議論は静かにします }
17. { A—仕事は細かいところにまで気をつけます  
B—自分の仕事はだざつばな方です }
18. { A—あまり空想にふけりません  
B—いろいろ空想することがたのしいです }

31. { A—自分の噂が気にかかります  
B—自分の噂は気にかかりません }
32. { A—冗談をよくいいます  
B—あまり冗談をいいません }
33. { A—自分の仕事を人にまかせても平気です  
B—自分の仕事は自分でしないと気がすみません }
34. { A—人から指図されて仕事することはきらいです  
B—人から指図されて仕事をしていても平気です }
35. { A—よく気がきく方です  
B—気がきかない方です }
36. { A—物事を人に打明けない方です  
B—物事を人にかくすようなことはありません }
37. { A—人にすぐに同情してしまふ方です  
B—人にあまり同情しません }
38. { A—人の批評をよくする方です  
B—人の批評をあまりしません }
39. { A—人の上に立つてうまくおさめることができます  
B—人の上に立つてうまくおさめることはできません }
40. { A—恨はなかなか忘れることができます  
B—恨むことがあつてもじきに忘れてしまいます }
41. { A—よくはずかしがる方です  
B—めつたにはずかしがることはありません }
42. { A—人の意見はすなおに聞き入れられる方です  
B—人の意見をあまり聞き入れられない方です }
43. { A—ひとりぼつちでいるのが好きです  
B—大ぜいの人と一緒にいる方が好きです }

19. { A—用心深い方ではありません  
B—用心深い方です }
20. { A—自分の動作はのろのろしています  
B—自分の動作はきびきびしています }
21. { A—派手な人目につく仕事が好きです  
B—人目につかない地味な仕事が好きです }
22. { A—物事に凝ることはありません  
B—何かを始めるとすぐそれに凝る方です }
23. { A—怒り易いが直ぐにさめます  
B—あまり怒りませんが怒るとなかなかさめます }
24. { A—非常に綺麗好きの方です  
B—きたなくともあまり気になりません }
25. { A—ずいぶん無駄すかいをする方です  
B—無駄すかいする方ではありません }

(9) 向性的な面

向性の面に就て如何なる幼児がリーダーになるかを調査したのである。即ち向性検査用紙を配布し集計した上で、リーダーになった幼児の向性指数を調査したのであるが、その中、指数の面に於て標準以上外向性の持主なる事が解つたのである。

上記の表に基づき京都市内園児を調査したのであるが最低三歳二カ月より六歳十カ月最高年齢の間に於て実施したのである。人員は総計2800名(男女共)。リーダーになつた幼児は男女共凡て外向性の持主であつたのである。此の結果からみても内向性の幼児はリーダーとして認められない事實の裏付を見出したのである。(43頁に續く)

44. { A—世の中には自分の氣にくわなないことが多いです  
B—あまり世の中に氣にくわぬことはありません }
45. { A—人の前で平気で話ができます  
B—人前では思うことがなかなかいへません }
46. { A—どんな人でも一度は騙つてみる方です  
B—他人をすげに信用する方です }
47. { A—人の世話をすることが好きです  
B—人の世話をすることはあまり好きしません }
48. { A—つとめて人前に出ないようになっています  
B—特に人前に出ないことはありません }
49. { A—自分と意見のちがう人につきあうことははいやです  
B—意見のちがう人につきあうことも平気でつきあっています }
50. { A—けちけちしない自分の物を人によくやります  
B—自分のものはなかなか人にくれてやりません }

(男子)

外向性	標準	内向性
↑ 4. 180以上		↑ 4. 177以上
3. 180—165		3. 176—166
2. 164—143		2. 155—136
1. 142—122		1. 135—115
0. 121—100	標準	0. 114—95
1. 93—98	正常域	1. 94—75
2. 77—57		2. 74—54
3. 56—35		3. 53—34
4. 35以下		4. 33以下
		↓
		↓

(女子)

外向性	標準	内向性
↑ 4. 180以上		↑ 4. 177以上
3. 180—165		3. 176—166
2. 164—143		2. 155—136
1. 142—122		1. 135—115
0. 121—100	標準	0. 114—95
1. 93—98	正常域	1. 94—75
2. 77—57		2. 74—54
3. 56—35		3. 53—34
4. 35以下		4. 33以下
		↓
		↓

(20頁より続く)

〔註〕 向性検査、向性指数の選出方法  
V.Q (向性指数)

$$= \frac{\text{外向点} + \frac{1}{2} \text{無応答}}{25} \times 100$$

イ) 健康状態

健康の面からしても、やはり身体的には丈夫な幼児であり、体軀を見ると様々であるが、元氣活潑な明朗さのある幼児であり、凡てリーダーになつた幼児は健康的に恵まれた者であつた。弱身者にては、やはり、リーダー格としては認められないのである。

ロ) 情意的な面

此の面で見ても、やはり、リーダーになる幼児は、他の者を抱擁する雅量と落着きのある者なるのである。

以上四面を觀察して解る様に、實施的な面を以つて、明らかにされたのであるが、此の四面を総合して私は特にリーダーとして必然的に備わらなくてはならぬ要素と名付けるのである。

以上の如く、リーダーとしての各観点を実体調査したのであるが此の調査は飽く迄も只その表面的記録を眺めるに止まらずして、我々は今後に残された幼児の教育的面を探究し、真理に導いて行く様努力したきものである。これを以つて幼稚園児のグループリーダー形成に就ての研究発表を終ることとする。(筆者京都市西山幼稚園長)

習 慣	健 康 の 慣	
<p>〇協同でつかう玩具等はゆずり合つて仲よくつかう</p> <p>〇先生、友達になにかしてもらつた時はありがとうとおれいをいひおしやう</p>	<p>〇濡れたものは何時までもつけてないでかわかしてもらう</p> <p>〇外に出る時は帽子をかぶつてゆく</p> <p>〇物を頂く時わ、特別手はきれいによくあらう</p> <p>〇水道の蛇口より少し口をはなして水をのむようにする</p>	<p>〇指画</p> <p>〇切紙(自由)</p>
<p>年少と同じ</p>	<p>年少と同じ</p>	<p>小さい金槌とのこぎり、釘を用意し板は葎の空箱をこわしてそれを用い。好きなものを適当につくらせる</p> <p>協同な用い方、床にじかにしないでごさをひいてするとか、その他園による約束をする</p>